



Title	小學生を通じて行つた石狩支廳管内農家娯樂調査
Author(s)	高倉, 新一郎
Citation	北海道帝國大學法經會法經會論叢, 7, 159-194
Issue Date	1939-03
Doc URL	<a href="https://hdl.handle.net/2115/10668">https://hdl.handle.net/2115/10668</a>
Type	departmental bulletin paper
File Information	7_p159-194.pdf



# 小學生を通じて行つた石狩支廳管内 農家娛樂調査

高 倉 新 一 郎

## 緒 言

本調査は小間良彦君が余の指導の下に昭和十二年農學實科卒業報文として行つたものゝ一部である。準備と經驗の不足から豫期に反し不完全な點だらけであつたが、此種の調査が、北海道に於ては勿論、我國に於ても極めて尠い事を知り、且つは石狩支廳山崎視學を始め、調査に御解答御援助を賜つた各小學校長並に教師諸士、其他の方々の御盡力を無にする事は心苦しいので、許される限りをまとめて發表する事にした。而して此調査に當り多くの失敗と遺漏を経験したが、よりよきものを生むために、その反省を併せ加ふる事にした。

又此發表の著しく後れたのは、此調査が卒業期もせまつた昭和十一年の十一月に開始せられ、解答送附を得たのは翌年一月半であつたため、集計に遺漏が多かつたので、翌年農學實科三年目の諸君及び飯野恒治君を勞して集計をし直したによる。此發表に當つて同君等の御協力を感謝する次第である。

## (一) 調査の方法

調査の方法は、費用と時間に制限され、め全部通信調査に據つた。農家各戸の状況をなるべく廣く知るため

には、農村の中心たる小學校を選び、是に質問票を交付して解答を記入してもらふ事とした。正確なる解答を得るためには、質問の要旨を了解し、是に應じた解答をなし得る能力のある高學年たる事を要するが、高等科以上では、高等科に子弟を入學せしめ得る家庭、即ち比較的生活程度の高いものに偏るがために、義務教育の最高學年たる尋常科第六學年を選んだ。而も尋常科第六學年のみを選んだのは、同一家庭に於ける重複解答をさけたかつたのと、解答の同質性を願つたからである。従つて、質問も尋常科第六學年生の解答し得る様な程度に止まつた。(但し回答は豫有通りには行かず、上水稻及廣島東部は高等科のみ小野幌に尋常五年を含んで回答された。)

小學校を通じての調査も管内の全校に及ぼす事は出来なかつたので止むなく十六校を選んだ。最初は石狩支廳管内を特殊の地方に區別し、その地方に於ける代表校を選び、各地方差を見やうとしたが、適當な觀點を握る事が出来なかつたので、管内の各校より一校宛、純農村小學校と思はれるものを、視學の意見に基いて選定した。而して其結果に普遍性を與へるために、別に部落單位の調査を行ひ、其學校通學區域の全管内に於ける地位を知らうとし、是又支廳當局の意見に従ひ、部落の事情に通ずる適當な人を選んで質問書を發した。然し乍ら前者は濱益村を除く十五校全部より解答を得たにかゝはらず、後者は次表の様な成績であつたために、此調査を全管内の事情にまで普遍化する事は出来ず、此報告には唯參考とするに止めた。

前者の調査が比較的成績のよかつたのは、教育界の此種の調査に深い理解があつたためと、山崎視學の特に熱心な斡旋の結果であつたと思ふ。

未解答の所も貸すに時日をもつてすれば、相當の成績は挙げ得たと思ふが、集計を怠いだたために打切るの止むなきに至つた。然し學校に於て未解答なる濱益村の濱東尋常小學校は管内でも特殊の地位にあり、且つ兒童の數も尠いため、結果には大きな差がなかつたと信ずる。

即ち各小學校より得た解答數は次の如くであつた。

町村名	學校名	解答數	村名	學校名	解答數
一 札幌村	札幌村第二尋常高等小學校	三三	〇 石狩町	生振尋常高等小學校	二〇
二 篠路村	篠路尋常高等小學校	四六	一 當別町	辨華別尋常高等小學校	四一
三 琴似村	新琴似尋常高等小學校	三六	二 新篠津村	新篠津尋常高等小學校	四一
四 手稻村	上手稻尋常高等小學校	四〇	三 厚田村	聚富尋常小學校	二二
五 藻岩村	八垂別尋常高等小學校	一九	四 惠庭村	松園尋常高等小學校	二二
六 豊平町	篠舞尋常高等小學校	一九	五 千歳村	檢淵尋常高等小學校	二二
七 白石村	小野幌尋常高等小學校	二四	六 濱益村	濱東尋常小學校	〇
八 廣島村	東部尋常高等小學校	三九	計		三七三
九 江別町	篠津尋常小學校	二四			

個人別質問書の解答成績は次の如くであつた。

質問先	質問書發送數	回答數	回答歩合(%)	質問先	質問書發送數	回答數	回答歩合(%)
小學校長	六六	三三	四七・〇	農會技術員	二六	三	一八・〇
實行組合長	九	三	三三・〇	計	一〇九	四三	三九・二
有志	一四	三	二一・〇				

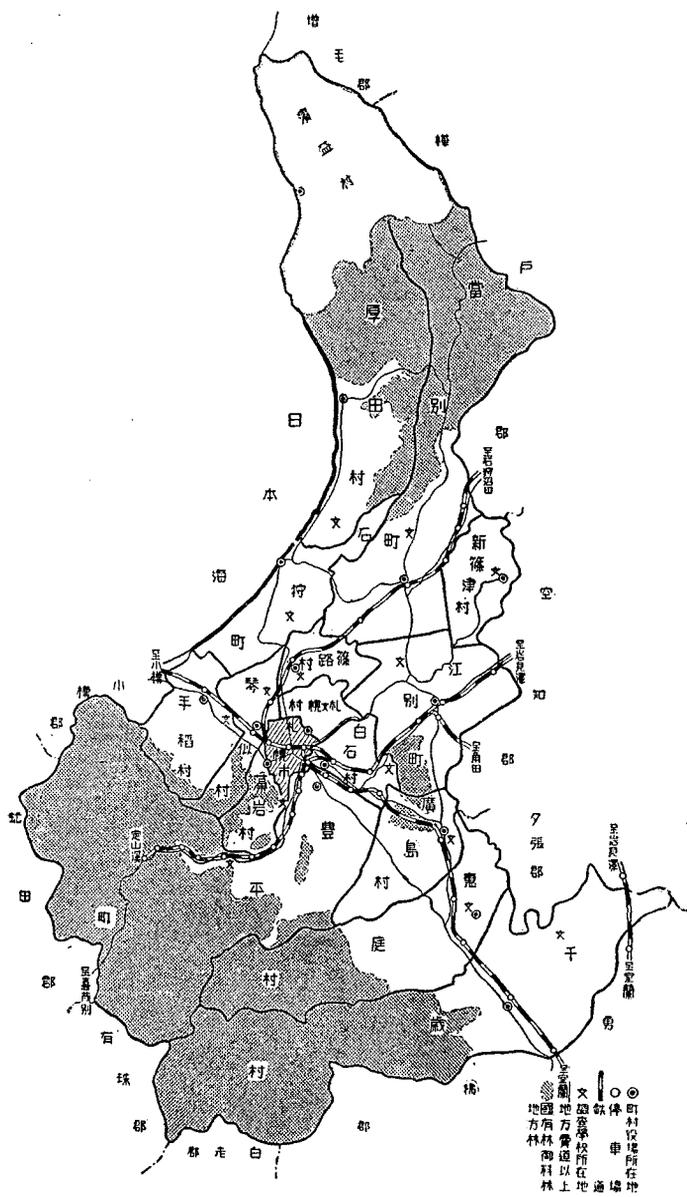
以上の如き成績であつたから、前者はその目的たる後者の普通化資料として役立たず、唯前者の集計の參考たるに止つた事は残念であつた。

最後に此調査を石狩支廳管内に採つたのは、此管内は札幌市を中心とし、明治維新後最も古く開拓された地帯で、北海道としては最も安定した農村が多く、而も北海道農村としての特徴を持つて居るので北海道のサンプルとして採用するのに最も便利と考へた外に、學校の所在地に近く、支廳にも色々な便宜を圖つて貰ふ事の出来る

小學生を通じて行つた石狩支庁管内農家娯樂調査

實益があつたにも依る。

次に各小學校の通學區域の位置及び概況を述べるべきであらうが、繁雜を恐れ、唯その位置を示す地圖を掲げるに止める。



## (二) 調査項目

學校に送附して兒童に記入を求めた質問票は次の如くである。

一、住所 ( \* ) 郡 ( \* ) 村 (町) 大字 ( \* ) 字 ( \* ) ( \* ) 小學校 ( \* ) 學年 (男女)

二、宗教 佛教 ( \* ) 宗キリスト教 その他 (例、天理教など) ( \* )

三、農業の種類 1. 自作 自作兼小作

2. 畑作 水田 牧畜 (牛) ( \* ) (頭)

(記入例……略之)

四、貴君の家で新聞を取つて居りますか。

取つて居ればその種類 ( \* )

取つて居なければどうして讀みますか ( \* )

五、貴君の家で雑誌を買つて居りますか。

買つて居ればその種類 ( \* )

月極 月遅れ 時々

(買つてゐなければ書かないで下さい)

六、貴君の家にはどんな本がありますか。(例、農業の本・小説) ( \* )

家でどの位本を買ひますか。( \* )

七、ラヂオがありますか。

あればその種類 鐵石式 真空管式

無いが ( \* ) で聞きます。

八、蓄音機がありますか。

どんなレコードがありますか。(例、浪花節・琵琶等あるもの) ( \* )

家にはないが ( \* ) の所にあつます。

九、家にある遊び道具 (例、碁盤・カルタ・トランプ等) ( \* )

小學生を通じて行つた石狩支廳管内農家娛樂調査

一〇、家で面白いことは何ですか。

附近の人々が家に集つて御馳走をたべたり、話をしたりする事があるませんか、あれば何のためにしますか。(\*)  
 二、お正月とお盆とお祭とどちらが最も面白いですか、どんな所が面白いですか。

お正月 ( \* )

お盆 ( \* )

お祭 ( \* )

次の事は分らないかも知れません、分らなかつたらお家の方に書いて下さい。

三、一年の間にごの位休みがありますか、近所の人も皆休み事がありますか、何で休みますか。

三、家の人は次の中で何を最も好みますか、どこで見たり聞いたりしますか、一人一人について書いて下さい。

映畫・芝居・盆踊り・流行歌・浪花節・民謡・將棋・碁・カルタ・トランプ・花札・角力・劍道・柔道・野球・卓球・登山・水泳・射撃・運動會・ラヂオ・蓄音機・和歌・俳句、その外何でも書いて下さい。

例 父 浪花節 (劇場・レコード)

兄 劍道 (學校) 俳句 (先生の家)

一四、家で酒を飲む人は誰ですか、一人一人についてその種類 (清酒・濁酒等)

毎日飲むかどうか、どの位飲むか書いて下さい。(例、父 清酒、時々、五勺位)

家で煙草を喫む人は誰ですか、一人一人について其種類 (バット・はぎ等)

どの位喫むか書いて下さい。

一五、娛樂のために他處に行く事がありますか。(皆で行く時でも、お父さんやお母さんや兄さんが一人で行く時) 又他の部落 (村) から娛樂のために來る人がありますか。

行く場合

何の爲に ( \* )

何時頃 ( \* )

誰か ( \* )

年に何回位 ( \* )

來る場合

( \* )

( \* )

( \* )

( \* )

備考 ○印は不用な項を消し、解答の部に○を附ける。(\*)は書入れる。

語句に就いては出来るだけ注意し、内容も研究し、尙ほ教師諸君には記入例を送つて指導を依頼したが、理解の出来なかつたものも尠くなく、不満足な解答が極めて多かつた。是も再調査をすれば補ひ得たと思はれるが、急いだために不明・未記入はそのまゝで集計した。

### (三) 宗 教

宗教を質問項目中に入れたのは、宗派に依て特別な行事(例へば講)があり、是に依て農家の生活が慰められ彩られるかと考へたのであるが、それについては充分な結果を得る事が出来なかつた。

調査數三七三の内無記入、従つて不明のものが三二あり、差引三四一中、佛教は三三一、其他一〇は天理教・神道・基督教である。佛教の内宗派を明記せざるものが三一あるが、明記したものゝみを採れば、總數三〇〇中眞宗は最も多く一九四、即ち約六五%を占め、次が禪宗の五七、約二〇%、淨土宗の二〇、約六%、眞言宗の一五約五%、日蓮宗の一三、約四%となつて居る。

第一表 宗 教

町 村 名	淨土宗	禪宗	淨土宗	眞言宗	法華宗	其他佛教	佛教計	天理教	神道	基督教	佛以外計	不明
一 札 幌 村	三	二	一	—	二	二	三	—	—	—	—	—
二 篠 路 村	三	四	六	—	—	—	三	—	—	—	—	—
三 似 似 村	六	四	八	—	—	—	三	—	—	—	—	—
四 手 稻 村	一	四	—	—	—	—	二	—	—	—	—	—
五 藻 岩 村	四	一〇	—	—	—	—	六	—	—	—	—	—
六 豐 平 町	四	八	—	—	—	—	七	—	—	—	—	—
七 白 石 村	八	—	—	—	—	—	二	—	—	—	—	—
八 廣 島 村	一六	—	—	—	—	—	二	—	—	—	—	—

小學生を通じて行つた石狩支廳管内農家娛樂調査



今是を昭和十一年末石狩支廳全管内のそれに比すれば、

戸數	自作	自作兼小作	小作	計	不明	其他
割合(%)	二二三 四・五	七五 三・九	一四〇 四・六	三六	一九	三六

即ち調査は石狩支廳管内全體よりも自作農が多く小作農が尠い。

尙ほ田作のみの農家は篠路村に一〇戸、辨華別に二戸あるのみであり、他は悉く畑のみ若くは田畑兩作である。更に新琴似及び新篠津には水田を行ふものなく、小野幌と辨華別は水田を耕作しない農家はない。是等も稍々其地方の特徴を示して居るものと思はれる。

第二表 自作別並耕地別

町村名	自作	自作兼小作	小作	不明	農業者計	農家總戸數	總戸數に對する調査戸數	農外	田作のみ	畑のみ	田畑兩作	不明					
一札幌村	五	八	九	一	二五	五〇九	二・三月に二戸	一	一〇	一九	三	一					
二篠路村	六	八	三三	五	四	一〇・二月に二戸	四	八	二	二	一	三					
三琴似村	三	四	二二	一	八	四九	四・一月に二戸	一	一〇	一八	一	一					
四手稻村	四	九	一七	一	四〇	八九	四・五月に二戸	一	一	六	一	一					
五藻岩村	六	一	六	一	一八	五四三	一三・五月に二戸	一	一	一〇	一	一					
六豐平町	六	三	二〇	一	一九	一、二、三、四、五、六、七、八、九、一〇、一一、一二、一三、一四、一五、一六、一七、一八、一九、二〇、二一、二二、二三、二四、二五、二六、二七、二八、二九、三〇、三一、三二、三三、三四、三五、三六、三七、三八、三九、四〇、四一、四二、四三、四四、四五、四六、四七、四八、四九、五〇、五一、五二、五三、五四、五五、五六、五七、五八、五九、六〇、六一、六二、六三、六四、六五、六六、六七、六八、六九、七〇、七一、七二、七三、七四、七五、七六、七七、七八、七九、八〇、八一、八二、八三、八四、八五、八六、八七、八八、八九、九〇、九一、九二、九三、九四、九五、九六、九七、九八、九九、一〇〇	一	一	二	一	一	一	一	一	一	一	一

七 白 石 村	二 五	二	一 四	七 九 五	一 二 八	一	二
八 廣 島 村	二 三	二	二 六	五 六 四	二 七 月	二	二
九 江 別 村	四	四	一 九 一	八 五 〇	〇 月	一	九
一〇 石 狩 町	七	三	四	四 九 六	六 月	六	六
二 當 別 町	〇	三	一 七 一	三 六	三 月	一	九
三 新 篠 津 村	九	四	二 〇	一 九	四 月	一	〇
三 厚 田 村	四	七	四 〇	四 〇	〇 月	一	〇
四 惠 庭 村	三	〇	一 〇 四	二 九	〇 月	二	三
五 千 歲 村	八	二	七 三 七	六 七	〇 月	二	九
計	二 三	七 五	一 四 〇	三 七 三	三 月	二	六

b. 牛馬飼育頭數

馬を有するものは三一〇戸、五八五頭である。是を調査農家總數より見る時は、八九・三%に當り一戸平均一・八九頭に當る。今昭和十一年末石狩支廳の總數を見れば全農家戸數一一、九九九戸中馬匹を有するもの九、四九〇戸、即ち七九・一%、飼育頭數一七、一七五頭で、一戸平均一・八〇頭である。即ち調査農家に於ては全管平均よりも馬匹を有する戸數は多く、平均飼育頭數も稍々高い。

第三表 牛馬所有農家

町	村	名	馬のみを有するもの	牛のみを有するもの	牛馬共に有するもの	牛馬共に有せざるもの	不明
一	札	幌 村	二	一	一	一	一
二	篠	路 村	七	一	一〇	三	二
三	似	村	三	一	五	一	一
四	稻	村	九	一	一五	六	一
五	手	村	二	一	三	四	一
六	藻	村	二	一	三	四	一

農家總數に對する割合 (%)	六平町	七白石村	八廣島村	九江別町	〇石別町	一當別町	二新篠津村	三厚田村	四惠庭村	五千歲村
六五・四	二二	一四	一〇	三	二	七	七	七	三	三
〇・六	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二三・九	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
10・1	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一三	七	一	一	一	一	一	一	一	一	一

更に飼育頭數別戸數を全支廳管内と比較すれば次の如くなる。

調査實割 石狩支廳管内 合 (%)	飼育頭數					計
	一頭を有するもの	二頭を有するもの	三―四頭を有するもの	五頭以上を有するもの		
一三七	107	六一	五	三〇	二一〇	
四・二	三四・五	一九・七	一・六	一〇〇	九四九・〇	
五、一五八	二六五・〇	一、四六四	二二八	九四九・〇	100	
五・四	二七・九	一五・四	二・三	100		

即ち、馬二―三頭を有する農家が比較的多いのであつて、是のみから云へば調査農家は石狩支廳管内農家中少々高い經濟的位置を占めて居る者なのである。

第四表 馬所有農家

町村名	馬を有する農家數	一頭を有するもの	二頭を有するもの	三頭を有するもの	四頭を有するもの	五頭を有するもの	六頭以上を有するもの	馬所有數
一札幌村	三三	一五	二五	八一	五	一	二	三三
二篠路村	七七	一〇	二二	三八	五	一	二	九九
三似田村	一七	八	六	三	一	一	一	二九
四手稻村	四四	〇	九	四	一	一	一	五四
五藻岩村	二四	六	四	一	一	一	一	三七
六平岩村	二二	六	四	一	一	一	一	三三
七白石村	四四	二	四	一	一	一	一	二七
八廣島村	三三	七	二	一	一	一	一	一六
九江別町	二四	六	六	一	一	一	一	三三
〇石狩別町	二二	六	四	一	一	一	一	二四
一當別町	二二	五	四	一	一	一	一	二四
二新篠津村	二七	六	九	三	一	一	一	六七
三厚田村	一〇	二	七	六	一	一	一	四一
四惠庭村	二二	一七	三	三	一	一	一	二五
五千歳村	二二	四	二	三	一	一	一	二四
計	三二〇	一七	二〇	四三	一八	二	四	五八五

牛を所有するものは八五戸、即ち全調査戸數の二四・五%を占め、その割合は全管内の二、四三四戸、二〇・三%よりも稍々多いが、飼育頭數は三六〇頭、一戸平均四・二頭で、全管内の一、〇一七頭、一戸平均四・五頭に比すれば稍々低い。是は調査の内に同管内に多い主畜農を含まなかつた故であらうと思はれる。故に耕種を主とし畜産を加味する一般農家がより多く調査に加はつたことになると思はれる。戸數割合を支廳管内に比較しても、大體近似數を得る。

第五表 牛所有農家

調査 實割 石狩支廳管内 實割 合	合 數 (%)	牛頭数を有するもの					計
		一頭を有するもの	二頭を有するもの	三頭を有するもの	四頭を有するもの	五頭以上を有するもの	
計	100	11.5	18.1	21.8	26.2	24.4	100
實割	100	11.5	18.1	21.8	26.2	24.4	100
石狩支廳管内	100	11.5	18.1	21.8	26.2	24.4	100
實割	100	11.5	18.1	21.8	26.2	24.4	100
合	100	11.5	18.1	21.8	26.2	24.4	100

町 村 名	牛頭数を有するもの							牛所有 數
	一頭を有するもの	二頭を有するもの	三頭を有するもの	四頭を有するもの	五頭を有するもの	六頭を有するもの	七頭以上を有するもの	
札 幌 村	1	1	1	1	1	1	1	7
二 路 村	1	1	1	1	1	1	1	7
三 路 村	1	1	1	1	1	1	1	7
四 路 村	1	1	1	1	1	1	1	7
五 路 村	1	1	1	1	1	1	1	7
六 路 村	1	1	1	1	1	1	1	7
七 路 村	1	1	1	1	1	1	1	7
八 路 村	1	1	1	1	1	1	1	7
九 路 村	1	1	1	1	1	1	1	7
十 路 村	1	1	1	1	1	1	1	7
十一 路 村	1	1	1	1	1	1	1	7
十二 路 村	1	1	1	1	1	1	1	7
十三 路 村	1	1	1	1	1	1	1	7
十四 路 村	1	1	1	1	1	1	1	7
十五 路 村	1	1	1	1	1	1	1	7
十六 路 村	1	1	1	1	1	1	1	7
十七 路 村	1	1	1	1	1	1	1	7
十八 路 村	1	1	1	1	1	1	1	7
十九 路 村	1	1	1	1	1	1	1	7
二十 路 村	1	1	1	1	1	1	1	7
計	11.5	18.1	21.8	26.2	24.4	24.4	100	100

小學生を通じて行つた石狩支廳管内農家娛樂調査

是に於て見れば、その調査農家数は極めて尠く、僅に三二・三戸に一戸の割合であり、其割合は地方に依て著しく異なるが（第二表）、調査農家は石狩支廳管内の農家の平均よりは稍々經濟的地位の高い程度のものであると云へやう。然し材料として省かざるを得なかつた不明・無記入等は恐らく其答が消極的なものであつたらうと考へるから、一般農家の娛樂はこの調査の結果よりも可なり低いものであつたと考へなくてはならないだらう。

### (五) 新聞

解答を明記したものの三一八中、新聞を購読するもの一六四、即ち五一・六%であつて、残り一五四、即ち四八・四%は購読しない。假に無記入のもの二九を購読せざるものとしても購読者の割合は四七・三%となる。換言すれば二・一戸に一戸新聞購読者を持つ割合となる。是を昭和九年大阪府下農村十二ヶ村に於ける農家生活状態を調査した際の數字に比較すれば、其調査では無購読數が五九・六%を占めて居て、購読者は四〇・四%にすぎず、石狩地方のそれは相當に高いことを知るのである。又昭和四年度福岡縣農會調査の農村實態調査によるも、新聞を購読する者は、都會附近の最も經濟的に恵まれ、智識慾も高い所ですら二戸半に一戸である。

購読新聞は北海タイムスが最も多く、一三〇軒即ち購読戸數の七九・三%を占め、次が小樽新聞二五軒一五・二%、東京朝日の六軒を數へるのみで、他は讀賣新聞が二、北海道新聞・種苗新聞・組合新聞・天理時報・國策新聞江別新聞・報知新聞・共榮新聞が各一宛解答されて居るに過ぎない。夫等の中には新聞と名付けられても實は雜誌に類するものがある。

購読はして居ないが、何等かの形式で讀むものは四三あり、全く讀まぬと解答されたものが六〇、他は不明である。購読はしないが讀むもの内では借りて讀むものが最も多く二七を數へ、次が近所で讀むもの五である。其他送つて貰つたり必要の時買つたり、古新聞を見たりするものが一〇ある。

尙ほ農閑期だけ購読すると解答したものが若干あつた。是等も注意していゝ點だと思ふ。（第六表参照）



戸に一戸の割合である。従つて購読せぬ者は五五、一六・九%であつて、假に明答を得ざる者を購読せざる者と看做しても、七七・八%、即ち一・三戸に一戸の購読者があるのである。購読する者の内月極雑誌を持つ者は一四九戸、即ち五五・二%で残は時々、若くは古雑誌を購入するのである。月極讀者の内一種類を購入する者が一七戸、七八・五%、二種とるのが三三戸、一五・四%、三種以上とるのは九戸に過ぎない(第七表参照)。購読雑誌は家の光が斷然多く、購読するもの一二五に達し、月極讀者のみでも一一八、即ち一種を購入するものの數に相當する。是に續くものはキング・主婦の友・婦人俱樂部・富士・講談俱樂部等であるが、月極のものには比較的少く、キングを除いては多く時々、若くは月後れとして購入されるものである。尙ほ少年少女雑誌を購読するのは六四で、婦人雑誌の六三で之に次ぐ數を示して居るが、月極讀者は尠し是等の雑誌の種類は略々大阪府の傾向と等しく、農業關係の購讀者の尠い事も一致するが、婦人雑誌の數は彼地に劣る。

第七表 雑誌

町村名	明答を得たるもの	購読するもの	月極購読するもの	一種を購読するもの	二種を購読するもの	三種を購読するもの	四種以上を購読するもの	雑誌の種類(重なるもの)						
								家の光	キング	主婦の友	婦人俱樂部	富士	講談クラブ	少年少女雑誌
一 札幌村	一九	一七	一三	九	四	二	一	一〇	六	四	二	一	一	三
二 篠路村	四三	三三	一六	一三	一	二	一	四	二	一	一〇	一	五	二
三 琴似村	一八	一一	五	四	一	一	一	二	二	一	一	一	一	三
四 手稻村	四〇	三六	一一	五	四	二	一	一	二	一	三	一	一	一〇
五 藻岩村	三三	三三	一四	三	一	一	一	一	六	一	一	一	一	一
六 豊平町	一九	一三	一〇	六	二	一	二	九	三	二	一	一	一	三
七 白石村	三三	一一	四	三	一	一	一	五	一	二	二	一	一	三
八 廣島村	三三	一四	一六	一四	二	一	一	三	五	一	二	一	一	八
九 江別町	一四	一四	一三	一〇	二	一	一	二	四	二	二	一	一	七





計	一五	二五	七	二	三	二	四	一	一	一	二	六	二	一	一	一	六	一	四	二
---	----	----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

(八) ラヂオ

ラヂオ受信機を有するものは三四、約一〇%に過ぎない。大阪府調査の六・五%に比すれば尠いと云へぬが全く聞かないものも六四、約一八%ある。其他は多く學校・附近等で聞くのである。受信機は鑛石のものが尠く眞空管を用ひるものが多く六七%に達して居るのはその普及と重大な關係があると考へられる(第九表)。此處に注意すべきは、農外戸數二六戸中、一〇戸(内眞空管七、鑛石三)がラヂオを有して居る事である。ラヂオは農家とは縁が遠いのである。

第九表 ラヂオ

町 村 名	ラヂオを有するもの		計	ラヂオを有せざるもの		きもの
	眞空管	鑛石		ナシと明記せる者	附近學校其他	
一 札 幌 村	一	三	四	二	二	九
二 篠 路 村	一	一	二	二	二	五
三 似 似 村	一	一	二	一	一	七
四 手 稻 村	二	一	三	一	二	六
五 藻 岩 村	二	一	三	一	二	五
六 豐 平 町	一	一	二	一	一	二
七 白 石 村	一	一	二	一	一	二
八 廣 島 村	一	一	二	一	一	二
九 江 別 町	一	一	二	一	一	二
一〇 石 狩 町	一	一	二	一	一	二

小學生を通じて行つた石狩支庁管内農家娛樂調査

二 當 別 町	四	一	二	五	四	一	二	三	三
三 新 篠 津 村	一	二	二	二	二	一	一	一	一
四 厚 庭 村	一	一	一	一	一	一	一	一	一
五 千 歲 村	一	一	一	一	一	一	一	一	一
計	三	一〇	一四	二五	二五	四	四	三	三

(九) 蓄 音 機

ラヂオに比して蓄音機はかなり普及して居て、之を所有するもの九〇、所有せずと明答したもの二〇二である。今不明五五を所有せざるものとすれば二五・九%、即ち四戸に一戸が所有して居る事となる。大阪府の三、二四六戸中九九戸、即ち三七戸に一臺に比すれば驚くべき普及である。所有せざるものも、全く聞かないものは三〇戸で、他は附近・親類及び學校等で聞いて居る。ラヂオより蓄音機の普及して居る原因は解らないが、恐らく後者が任意の時に自分の好むものを聞かれると云ふ點にあるので、時間も費用も豊かでない農村としては自然に思へる。

所有レコードの内最も普及して居るのは浪花節で流行歌之につき、琵琶・童謡・童話・民謡・万才等之に次ぐ。尚ほ洋樂・現代劇・詩吟等も一例宛數へられた。

第二十表 蓄 音 機

一 札 幌 村	九	八	三	一	三	一	六	七	四	一	一	一		
町 村 名	所有するもの	所有せざるもの	聞かざるもの	聞かざるもの	聞かざるもの	聞かざるもの	明答なきもの	レコードの種類	浪花節	流行歌	琵琶	童謡	民謡	萬才
	ナシと明記せる者													



村は二ヶ村に止つた。故に各村に平均して多いもののみをとつた。尙ほ四九戸の無記入があた。娯樂用具ではカルタが最大の二二八、所有明記戸數の八二・〇%を占め、次が碁盤の七六、二九・六%、トランプの九七〇、二六・七%、將棋の五三、一九・九%及び双六等である。カルタは百人一首と、いろはカルタと意味が異ふが、こゝでは兩者を區別する事は出来なかつた(第十一表)。全く之を有せずと明記したものは三二で一種のみを答へたものが一二一、二種七六、三種三九、四種二〇、五種以上が一〇である。(第十二表)

第十一表 娯樂用具

町村名	カルタ	碁盤	トランプ	將棋	双六	計	カルタ	碁盤	トランプ	將棋	双六
一 札幌村	四	八	五	一	二	九	九	一	三	一	三
二 篠路村	九	二	八	三	二	一〇	六	三	四	一	一
三 似村	五	五	一〇	五	二	二七	三	九	四	二	一
四 手稻村	六	一六	一〇	三	三	二五	七	四	二	二	三
五 藻岩村	六	一	三	五	三	一五	四	二	四	一	一
六 豊平町	〇	四	四	一	三	一四	三	三	六	一	一
七 白石村	九	四	二	二	四	二二	四	七	四	一	一
八 廣島村	二〇	八	五	二	四	二九	八	七	五	三	三
計											
	二九	八三	七二	五三	三二	二二九	八三	七二	五三	三二	三〇

此外に碁・スキー・スケート・家族合せ・球・羽子板・輪投・コリントゲーム・麻雀等あるも少数にして、分布も偏して居るので省略した。

第十二表 娯樂用具

町村名	一種を有するもの	二種を有するもの	三種を有するもの	四種を有するもの	五種以上を有するもの	計	有せざるもの	明記せざるもの
一 札幌村	九	七	一	一	一	一八	二	三
二 篠路村	九	八	六	二	七	四一	一	一



親類や隣人が集る機會は各方面共正月が一番多く、祭・盆等が是に次ぐ。行事として最も普及して居るのは實行組合の相談會で、多くは月一回行はれ、中には御馳走が出る所もある。又實行組合で家族慰安會を行ふ所もある。村の家庭會・共濟會・貯金會等と云はれて云るものも是に類するものであらう。無盡の行はれて居る所は是も集會の理由である。是等と同様に普及して居るのは報恩講（お講・大師講等と答へられたものもある）で、年一度集會を行ひ御馳走が出るのであるが、講の寄合の行はれない所は殆んどない。其他隣人の集る時は建前・屋根葺・祝儀・不幸等臨時のものを除いて田植・用水祭・收穫祝・糶スリ等の際がある。

### (三) 休日

農村に於ける休日の種類と、度数・日數等を知るのが質問一二の目的であつたが、是には満足な解答を得た者が尠なかつた。休日の種類が書かれても、時と日數が書かれてなかつたり、時と日數が出て居ても、その理由が書かれてなかつたり、時には小學校の休日を擧げたものもあつた。故に此集計は困難だつたので、唯傾向を示すに止める。

休日は冬期・雨降等天候上止むを得ざるもの及び祝儀・不幸等の外は正月・春秋二回の祭（春祭は六月十五日の札幌神社大祭・秋祭は地元の社の祭）、盆が最も多く、正月は三日乃至一〇日、祭は一日乃至二日、盆が一日乃至二日が多い。其他彼岸・半夏至等が擧げられる。特に重要なのは運動會で、單に學校だけの行事でなく、部落中の楽しい一日であるらしく、何處でも正月・祭・盆と共に重要な休日になつて居る。同じものに實行組合の慰安會である。農事に關係したものとしては田植休・泥落し等が比較的普及して居る。

今參考のため二種調査票より得た管内の年中行事を掲ぐれば次の如くである。

- 一 月 各種團體總會・小學校同窓會・各團體新年宴會・慰安會等が行はれる。
- 二 月 全く娯樂的な催しはない。

三月 小學校卒業式・同窓會・學藝會があり早い所では春祭がある。節句・彼岸等從來の仕來りに従ふ家も多い。

四月 春祭・敬老會が行はれて居る。農會記念日を利用して、演藝會等を催す所もある。

五月 春祭の早い所では運動會がある。節句・花見。

六月 札幌神社大祭・運動會が諸處に行はる。

七月 特に運動會が盛んである。一般に農業が一段落を告げるので、半夏至・泥落し等の骨休みが行はれる。見學旅行等催される。

八月 七夕祭・同窓會・盆休・納涼會等がある。

九月 秋祭（本祭）が處々に行はれる。

十月 秋祭がある。仕事が一段落なため演藝會・宣傳映畫會・品評會等が催される。

十一月 報恩講。

十二月 義士講・入除隊兵歡迎會等が行はれて居る。

是等の行事に行はれるものとしては、

正月 主として家庭内の遊戲が多く、百人一首を最とし、圍碁・將棋・トランプ・寶引・花札等が行はれて居る。食物としては餅・密柑の外特別なものはない。千歳・厚田等の産地では鮭は缺くべからざるものとなつて居る。

祭 催物としては映畫・角力・手踊・芝居・浪花節等が行はれ、又銃劍術・劍術の試合等も行はれる。

芝居・浪花節等は青年團員が行ふ場合もあるが、多くは祭禮を自當の田舎廻りの藝人を雇ふ。食物としては甘酒・餅・すし・赤飯・おはぎ等が多い。

盆 催物としては盆踊りが主である。食物としては赤飯・素麵等である。

### (三) 行 事

正月と盆と祭とどれが一番楽しみか、と云ふ質問に、一つだけを選んだものは尠なかつた。故に順位にかゝは

らず楽しいと答へたものを集計すると、正月が最も多く二九九に達し、祭が之につき一三四（一番に選んだ者が四三）、盆が一番不人氣で九三（一番に選んだ者四）であつた。正月が最も選ばれたのは、此調査が十二月中に行はれ、兒童の期待が最も多かつたからだとも思はれるが、その理由から見ても、必ずしもそうばかりとは言へない。然し中には農村が不況なので正月等は面白くないと答へた者も二、三あり、調査者を暗然とさせたものもあつた。

正月で楽しみなものはカルタ取りが最も多く、各村に普及しゆつくりと遊べると答へたもの及びスキーが是につき、その他トランプ・双六・風揚・札幌行等が多く、餅が喰へる、年をとるのがうれしい等と無邪氣なのがあつた。ゆつくり遊べる、と云ふ項には、色々な表現があるが、比較的長い休みを、落付いた氣持で遊べると云ふ事が中心である。盆は忙しくて、仕事がすんでから遊ぶとか、祭は短かすぎるとか云ふ答を見る時に、ゆつくり遊べる正月が、農家の子弟に採つてどんなに楽しい事か了解される。

尙ほ來客中には、他處に行つて居る兄弟の歸宅を待つ喜びをのべたものも相當にあつた。

第十三表 正月

町村名	正月がよ いとへ答 たもの	カルタ	ゆつくり 遊ぶ	スキー	トランプ	双六	風揚	餅が喰 へる	町へ行 く	年をと る	家中で 遊ぶ	他家に 來客	他家に 遊びに 行く	羽子 つき	御馳走
一 札幌村	三二	三	五	三	二	一		三	一	一		六	一	二	
二 篠路村	三九	九	七	三	五	三		三	二	二		四	三		
三 琴似村	二七	五	四	三	一	一		三	二	二					
四 手稲村	三三	二	三	八	三	四		二	一	二					
五 藻岩村	一八	六	一	一	一	一		二	一	六					
六 豊平町	二六	八	六	一	一	二		二	一	二					
七 白石村	一〇	二	一	一	二	三		一	一	二					







落音機	一八	運動會	三	芝居	一六	讀書	一五	野球	七	ラヂオ	九	劍道	三	落音機	三
碁	一六	歌謠	一四	劍道	一六	カルタ取	一三	角力	五	映畫	八	映畫	三		
將棋	一六	ラヂオ	八	浪花節	一四	落音機	一一	トランプ	五	唱歌	五	碁	二		
ラヂオ	一四	踊	六	野球	一三	踊	八	芝居	五	トランプ	四				
運動會	八	讀書	六	盆踊	一〇	運動會	六	ラヂオ	五	お手玉	四				
カルタ取	五	裁縫	六	角力	九	トランプ	六	スキー	四	讀書	三				
劍道	五	盆踊	五	トランプ	九	手藝	三	水泳	四						
登山	五	寺參り	五	卓球	八			双六	三						
歌謠	五	カルタ取	四	將棋	七										
射撃	四	料理	二	水泳	七										
野球	四	和歌・俳句	二	ラヂオ	七										
寺參り	四	角力	二	碁	五										
競馬	四			柔道	五										
讀書	三			讀書	四										
				登山	三										
其他講話・乗馬・尺八・料理		其他萬才・御詠歌・お話・學藝會等あり		其他運動會・花札・劍舞・ゴルフ・スキー・話釣・蹴球・寫真等あり		其他浪花節・ラヂオ・音樂・野球・卓球・乗馬・羽根ツキ等あり		其他榻遊び・遊戯・劍道・柔道・魚捌ひ・乗馬・唱歌・將棋・讀書・踊・登山・射撃等あり		其他遊戯・人形遊び・體遊び・手藝・オハジキ等あり		其他讀書・釣碁・踊・落音機等あり		其他劍道・和歌・角力・踊・讀書・養鷄等あり	

則ち高年齢の男子には浪花節が最も多く、高年齢の女子には芝居が魅力である。青年には映畫が何よりの楽しみであり、兒童にはカルタ取が一番面白い。此の傾向は大坂府に於ける調査に於ても略々同じである。本調査に於ては之を年齢階級で分けて居るが、今比較に便するため三十一歳より五十五歳迄の男を父、十五歳より三十歳迄の男を兄、三十一歳より五十五歳迄の女を母、十五歳より三十歳迄の女を姉、五十六歳以上の男女を祖父母と假定する。

父	浪花節	魚釣	映畫	芝居	讀書	第一	第一
母	芝居	映畫	讀書	萬才	芝居	讀書	第二
兄	映畫	野球	讀書	魚釣	浪花節	スボーツ	第三
						祖母	第四
						祖母	第五
						姉	第六
						父	第一
						映畫	第二
						芝居	第三
						讀書	第四
						裁縫	第五
						ラヂオ	第六
						手藝	

(五) 喫煙及び飲酒

煙草を喫む者は父に於て最も多く一六六人を數へ、兄の五二人、祖父の一八人は是に次ぐ。其他祖母・伯父母・母等を擧げ得るも極めて尠い。喫む者を有する家は二一〇、即ち六〇・五%で全戸喫む者のない家は九二に過ぎぬ。父・兄・祖父等の内何割か之れを喫むかと云ふことは、家族の調査を缺いたために知る事は出来なかつた。

第十六表 煙草

町村名	煙草を嗜む者						計	煙草を嗜む者のあつた家		明記なきもの
	父	兄	祖父	祖母	伯叔父	母		伯叔母	家	
一 札幌村	一三	三	一	二	一	一	九	一七	五	一
二 篠路村	一三	三	一	一	一	一	八	一〇	三	一
三 似路村	九	五	一	一	一	一	四	一三	二	三
四 手稲村	二四	五	二	一	一	一	三	二八	一	三
五 藻岩村	二	二	三	一	一	一	七	一三	一	五
六 豊平町	二	六	一	一	一	一	三	一五	二	二
七 白石村	九	三	一	一	一	一	三	九	三	二
八 廣島町	七	一	一	一	一	一	三	一〇	三	二
九 江別町	五	一	二	一	一	一	七	二	三	六

小學生を通じて行つた石狩支廳管内農家娯樂調査

石狩町	九	一	一	一	二	三	一	二
當別町	四	一	一	一	六	九	三	七
新篠津村	三	一	一	一	五	五	七	七
厚田村	一	一	一	一	三	三	一	一
恵庭村	八	一	一	一	三	三	三	二
千歳村	五	二	一	一	一	一	六	三
計	二六	五	八	四	二〇	二〇	二〇	四三

煙草の種類は明記されたもの二三六人に就き見れば次の如くである。

刻み煙草

はぎ	一六五人	なでしこ	二七人	あやめ	一三人	白	二人	梅	二人	計	二〇七人
----	------	------	-----	-----	-----	---	----	---	----	---	------

巻煙草

ゴールデンバット	一〇人	響	六人	曉	五人	朝日	二人	鳥	一人	光	一人	計	一二五人
----------	-----	---	----	---	----	----	----	---	----	---	----	---	------

即ち刻み煙草では「はぎ」が絶対多数を占め、「なでしこ」「あやめ」之れに次ぐも比較するに足らず、巻煙草ではゴールデンバットが絶対多数を占め、其他は比較にならぬ。而も巻煙草は比較的若い人に多く、刻みは老人に多いことは次の数字に依て察せられる。

兄以外のもの	一一〇	刻み煙草のみを用ふるもの	一一	巻煙草のみを用ふるもの	二一	両者を併用せるもの	一七
					二九		四八

消費量を明記したものの二七一例についてその一人の消費量を見れば、刻み草煙一ヶ月に就き四〇匁包

即ち一ヶ月一個のもの最も多く、二個のもの之に次ぐ。

卷煙草一人の消費量は

〇・五個以下	〇・五個	一個	一・五個	二個	二個以上	計
四	九	五四	一六	二〇	五	一〇八

即ち一日一個のものが最も多い。

酒を嗜むものは同様に於て最も多く一六七人を數へ、祖父の一六人、兄の二人之れに次ぐ。酒を嗜む者を有する家は一九〇戸で全戸嗜まぬ家は一〇六戸、即ち煙草程普及して居ない様である。父の内酒・煙草兩者を嗜むものは九七人である。

第十七表 酒

町村名	酒を嗜む者						計	酒を嗜む者のある家なき家		明記なきもの		父の内酒・煙草兩者を嗜む者の		毎日用ふるも
	父	祖父	兄	伯叔父	祖母	母		伯叔母	ある家	なき家	きもの	の	の	
一 札幌村	七	一	一	一	一	一	一〇	一八	三	二	一	一	四	
二 篠路村	三〇	二	五	二	一	一	三〇	三六	一	一	六	六	八	
三 似似村	〇	一	一	一	一	一	一〇	一〇	五	三	六	六	三	
四 稻岩村	二	二	一	一	一	一	六	四	二	五	二	三	五	
五 藻岩村	八	二	一	一	一	一	三	二	二	五	六	六	四	



質問第十五の目的は、農家が娯樂のためどの位他町村と往復するかを知りたいと思つたが、殆んど満足な解答を得なかつた。故に集計は止めて唯感想のみに止める。

他部落との往來は臨時の不幸・出産・嫁入・入營・建前等の祝儀を除いて正月の年始・祭の招待が最も多く、盆・報恩講等是れに次ぐ。往復は何れも極内端のものに限られて居る。回数は家毎に異なるが、是れは主として親類・知人等の數に依るものと思はれる。娯樂を求めて附近の市町村を利用する事は比較的尠い。札幌市に隣接する町村では、札幌へ出かけるものが多いが、多くは正月・札幌祭・盆等に限られ、平時に出かける例は極めて尠なかつた。札幌市に直接隣接さざる町村では、娯樂を附近の市街に求める者が多いが、その度数は札幌市隣接町村が札幌に求めるより多い様に思はれた。材料が尠かつたので、娯樂を町や市に求める度数と交通の便否に就いては之れを知る事が出来なかつた。

## 總括

調査方法に就いて

此調査に選ばれた方法、即ち農村小學校兒童に一定の質問書を發し、其解答を集計する方法は、小學校が農村文化の中心であり、且つ各家庭の餘暇生活に喰込んで居る事の最も廣い點で、農家娯樂調査にとつて最も重要な方法の一つである。但し農家娯樂は農家の餘暇生活の一部であり、最も是れを數量化する事は困難なものなので兒童の明答を得る様な簡單な具體的な事項のみでは満足する事が出来ない。兒童の解答に生氣と意義とを與へるものは、各家庭の解答で、調査は結局兒童を通じて各家庭の餘暇生活を表現せしめんとするにある。然し兒童を通じて知り得る事は結局農家娯樂の一部の而も表現し易い事項に限られて居る。

以上の調査は農家を中心として行ふものであるが、是れを補ふものとして、部落としての生活をも理解しなく

てはならぬ。是れは最早各家庭の解答では知り得ない、若くは之れを通ずる時は極めて無駄の多い事項である。故に質問事項も右の事情に基いて分類し組立てられねばならない。簡単な兒童でも答へ得る事項若くは兒童の主觀を尊重すべき事項は兒童に質問すべく、簡單明瞭に誤解のない質問を答へ易い形式で出さねばならぬ。

各家庭への質問は、兒童に對するものよりも複雑で、兒童の常識にないものに向けらるべきであるが、矢張り數量化し得る型に於て簡單明瞭に提出されねばならず、不必要に立入つた質問は控えられねばならない。

本調査では此兩者が共に用ひられたが簡單明瞭と云ふ點と、數量化し得ると云ふ點で批判さるべき質問事項多く、且つ生活を全的に把握するために重要な質問事項中、農家娛樂に缺けたものが多かつた。(例、農家經營反の構成・家族の年齢・教養・社會的地位等) 蓋し各家庭の娛樂生活を知らうとすれば、其家庭の經濟的・社會的地位・家族の年齢・教養等は何れもそれに深い關係を持つからである。

家庭別の調査と相並んで部落の生活、例へば部落の年中行事・農事暦・娛樂設備等に關しても充分なる理解を必要とするが、是れには實地調査を最良とし、然らざれば調査を依頼した學校にその解答を依頼するを可とする。本調査は此點にも注意したが、質問の方向を誤まつたがために満足すべき資料を得られなかつた事は既述の通りである。故に調査の結果を良好ならしむるためには學校當局、殊に調査擔當教師(本調査に就いては校長、若くは第六學年受持訓導)に調査の目的及び意義を質問の各項目に迄互つて一々理解し、同情を以て援助して貰ふことである。本調査には是れに關しても手落があつた。然しこうした點に満足を得れば本調査の如き方法は、當面の目的に對し誤つた方法ではないと思ふ。

調査の結果は種々の缺點があつたにかゝらず、目的とする札幌市を中心とする農家の娛樂生活の一般を知り得たと思ふ。其一々に就いては各項に詳述したので重複をさけない。